

分かる快感!

# Z会ナビ

算数

理科

社会

## お題

### 古代のお墓、古墳を知ろう!

(名古屋大学 2020年 日本史)



弥生時代後半以降、現在の近畿地方を中心に巨大な古墳が出現し、日本列島各地で同じ特徴を持つ古墳が作られるようになった。その理由として、以前はヤマト政権が各地域への支配を強めていったと考えられていたが、最近の研究では、各地の国々が政治的につながりを持ち、協力していたことを示すものと考えられている。

400年代になると、百舌鳥・古市古墳群のように大きな古墳が作られるようになったが、500年代になると、朝鮮半島のお墓の形式が広まってきたことや、国のリーダーだけでなく有力な農民も古墳をつくるようになったことなどから、小さな古墳が各地に多数つくられるようになった。

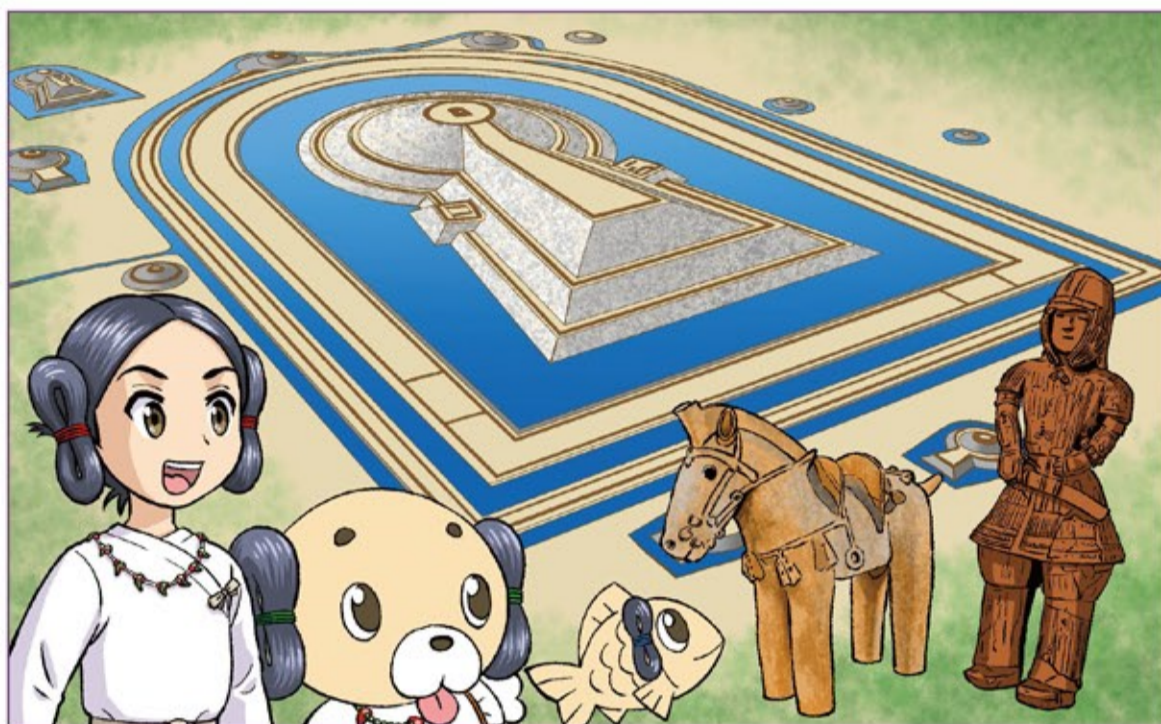
やがて中国大陸からもたらされた仏教の信仰が広まると、火葬の風習が広まり、古墳はつくられなくなった。

下線部の「同じ特徴」とはどのような特徴か、説明しなさい。

今回取り上げるのは、古代のお墓、古墳です。昨年、大阪府の百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されたことを覚えている方もいらっしゃるかもしれませんがね。古墳は弥生時代の後半から飛鳥時代の前半ころまで日本各地でつくられました。実は古墳は全国で15万~20万基程度あると言われており、これは全国にあるコンビニエンスストアの約3倍の数にあたります。エジプトのピラミッドなど、世界にも巨大なお墓はありますが、さまざまな形で多数残されている点で日本の古墳は特徴的なお墓です。今回はそんな古墳の世界をのぞいてみましょう。

#### 各地に同じ形の巨大な墓

弥生時代までは、人が亡くなると集落の近くの墓地に埋葬されていましたが、徐々に丘の形をした大きな墓が作られるようになります。これは、稲作のために集落で共同作業をしたり、近くの集落と争ったりする中で、集落の中にリーダーが登場し、リーダーを埋葬するために大きな墓が作られるようになったものと考えられています。



イラスト・瑞木匠

この丘の形のお墓(墳丘墓ということがあります)がやがて古墳につながっていきます。墳丘墓は地域ごとに異なる特徴をもっていたのですが、古墳は離れた地域でも共通する特徴を持っている、という点で墳丘墓とは区別されます。その特徴とは、①前方後円墳と呼ばれる鍵穴型の形、②竪穴式石室と呼ばれる棺を納める部分の作り方、③鏡など呪術に使われるものが一緒に納められていること、の三つです。同じ特徴を持つ古墳というお墓が作られたことから、各地にある国のうち、いくつかが政治的につながりを持つようになったのではと考えられ、古墳が作られた時代をそれまでの弥生時代と区別して「古墳時代」とも呼びます。

#### 日本最大の大仙古墳

世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群は、最盛期の古墳が多数含まれます。その中に日本最大の古墳である大仙(大山)古墳(仁徳天皇陵)があります。大きさを世界の巨大なお墓と比べてみましょう。

	長さ	高さ
大仙古墳	約486㍍	約35.8㍍
クフ王のピラミッド	約230㍍	約146㍍
秦の始皇帝陵	約350㍍	約76㍍

建設会社の試算によると、大仙古墳くらいの規模の建築物を、現代の機械を使わずに人力だけで作るには合計で600万人ほどの作業員が必要、とされています。これは1日2000人ほどが働いてもできあがるまでに15年以上もかかる、という作業量になります。この時代に、この大きさ

のお墓をつくるのがいかにたいへんだったか、これをつくることができた国のリーダーの力がいかに大きなものだったかがわかります。

#### 古墳のいろいろな姿

古墳というと大仙古墳などのように緑に覆われた印象があるかもしれませんが、つくられた当時は違う姿をしていました。群馬県の保渡田八幡塚古墳は、火山灰の下に埋もれていたことで1500年前の姿を今に残しているめずらしい古墳です。石が敷き詰められ、植輪が飾られた当時の姿を見ることができます。また、小高い丘と堀をもつ古墳の中には、あとの時代になって城砦として利用されたものもあります。福島県の大安場古墳のように、つい最近まで自然の山だと思われていた古墳もあります。みなさんの身近な地域でも、調べてみたら意外と近くに古墳があるかもしれませんね。(Z会・河原井彩)

#### 今回の教訓

文字史料が少ない時代のため、古墳は当時を知る貴重な手がかりです。みなさんも古墳を手がかりに、その時代の様子を想像してみてください。



河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。